



▶石狩市文庫連絡会  
（いしかり文庫）（花川北4-3若葉会館）と（なかよし文庫）（花川南2-6ニューあかしあ会館）での校活動や、学などや幼稚園・病院など「依頼があればどこへでも」出掛け、大絵本を讀むほかの型紙芝居などの公演など精力的に行っています。現在、メンバーは19人

「読み手が素直に面白い、楽しいと感じたものを讀んであげること。それを一番大切にしているんです」

まちにまだ図書館がなかったころから「子どもたちに本の楽しさを伝えたい。そのきっかけになれば」と、旧石狩町時代からいち早く「読み聞かせ」に取り組んできた「石狩市文庫連絡会」。同会という『読み語り』に足を運ぶと、子どもたちが大きな声をあげて笑う姿に驚きます。大人が掛け値なく面白いと感じたものをぶつけるとき、初めて子どもたちもまっすぐ

に受け止めてくれることを肌で感じた瞬間でした。30年近く子どもたちに『読み語り』を続けてきた同会代表の駒井秀子さんは「楽しいから続くのよ」と目を細めつつ、「30人の子どもたちに喜んでもらえた絵本がいい絵本で、5人にしか喜んでもらえなかった絵本が意味のない本かといえ、そんなことはないでしょう？ 少なくとも5人のためにその1冊の本があつたことは、いいことですよ。私たちはそんなことを大切に、できるだけいろんな本を届けたいと願って活動しています」

平成12年の市民図書館開館時から活動する同館専属のボランティア団体「おはなし会「びっくりばこ」」は、1人で数冊の絵本を「読み聞かせ」しています。公演当日は、大抵10冊前後の絵本をあらかじめ用意しておき、実際に集まった子どもたちの年齢などを考慮して、「今日はどれを讀んであげようかなあと、子どもたちの顔を見ながらその場で決めます」とは、メンバーの一人、山口ふじ子さん。取材当日も、就学前の子どもたちが多かったため、「読み聞かせ」の前に「緒に手遊びをしました。図書館という決まった場所での活動だけに、訪れる子どもたちの中にはすっかり顔なじみの子も。「私自身はやさしい気持ちになれる絵本が好きでよく讀んであ

げますが、子どもたちにはカラフルな色使いの作品が人気ありますね」と最近の傾向を踏まえながら山口さんは、「でも、どんなものを讀むにしても」と強調し、「子どもも大人も「読み聞かせ」を通して何かを感じてくれればそれで十分！」

「学校の「朝の読書」時間に、「読み聞かせ」に出掛けるお母さんたちもいます。南線小学校（清水博校長）では、毎朝10分間、「朝の読書」を実施。うち週1、2回の割合で、お母さんたちによる「朝の読み聞かせ」が行われます。同校で「読み聞かせ」が始まったのは今から4年前のこと。

PTAの広報部ではかの学校や書店で行われている「読み聞かせ」を取材したのがきっかけでした。そのとき同部に所属していた岡野牧子さんが「自分もやってみたい」と、当時1年生だった自分の子どものクラスで始めたことが、やがて多くのお母さんたちの賛同を得て、今では全学年で展開されています。その数155人。賛同者の一人、佐々木

直美さんは「1年たっても、子どもたちの前に立つと緊張するんです」と言います。それだけ、子どもたちの目がいつも真剣なのでしょう。

ところで、今回取材した4年2組で印象的だったのは、絵本が讀まれていたことでした。4年生にもなると、絵本を拒絶する子もいたのでは？ そんな質問をぶつけると、岡野さんも「初めは私もそう思いましたが」と笑いながら、「実は私自身、今、絵本に夢中なんです。それで、この面白さを子どもたちに伝えたくて讀んでいるんですが、大切なのは「何を讀むか」ではなくて、本を讀む行為を共有す



▲おはなし会「びっくりばこ」

3つある図書館専属の「読み聞かせ」ボランティアグループの中では最も長く、市民図書館オープンとともに活動を開始。第1・3土曜は本館の「おはなしのたまご」で、第2土曜は花川南分館で絵本や紙芝居、パネルシアターなどによる「読み聞かせ」を行っています。現在、メンバーは6人

11月  
3日・4日・5日  
開催!

## 図書館まつり

7回目を迎える今年のテーマは「あつまろう! 本のまわりに」。特集でもご紹介した市民団体の皆さんが、4月から準備してきた数々の企画が目白押しです。

年に一度の楽しいお祭り。いつもと違う雰囲気、気の図書館に家族そろって出掛けてみませんか?  
問合せ 市民図書館 ☎72-2000

### 【本館】

#### ●3日(金・祝)

- ・北海道大学奇術研究会マジックショー  
①10:30~11:00 ②11:30~12:00
- ・岸田典大公演会「絵本はもっと面白い」  
13:30~14:00

#### ●4日(土)

- ・フロアボランティア映画上映会  
10:30~11:30
- ・布の絵本サークル「にじ」  
作品展示(5日も)  
10:00~17:00
- ・石狩市文庫連絡会おはなし会  
①10:30~11:00 ②11:30~12:00  
③13:00~13:30 ④14:00~14:30
- ・伝承あそび「おてだま」コーナー  
10:00~17:00
- ・谷地元雄一講演会  
13:00~15:00  
「これが絵本の底ぢから!」  
と題して、講師が主宰する  
児童クラブ「ホロホロ」での、  
絵本を介した子どもたちの  
面白エピソードが満載の講演会です。



- ・教育大学札幌校マンドリンクラブ演奏会  
16:00~17:00

#### ●5日(日)

- ・おはなし会「びっくりばこ」  
おはなし会  
11:00~12:00
- ・人形劇団ひよっこ公演  
「番ネズミのヤカちゃん」ほか  
13:30~14:30
- ・伝承あそび「おてだま」コーナー  
10:00~17:00
- ・石狩市朗読ボランティアの会による朗読会  
15:00~16:00

#### ●3日間連日開催

クイズラリー／村山家文書展示／  
天然酵母パンの販売／クレープ屋台

### 【花川北・花川南・八幡・厚田・浜益各分館】

#### ●3日(金・祝)

おはなし会 13:30~14:00

◆まち全体で読書環境づくりを  
市では、市民図書館を中心として、子どもに本へ興味・関心をもってもらおうと、おはなし会や親子で参加できる図書館講座、図書館まつりなどさまざまな事業を展開してきました。

ること、ともに過ごすこと。へ読み聞かせの意義はここにあると信じるようになりました」。あるとき、岡野さんは子どもたちに同じ絵本を読んでもあげても、その受け止め方が一人一人全く違うということに気付きます。「とても驚きましたが、これも子どもたちと同じ時間を過ごしているからこそその発見」といい、「本の持つ力を知って、日々新鮮な気持ちでへ読み聞かせに取り組んでいます」。

平成18年度からはさらに、絵本を通して親子が触れ合うブックスタート事業が始まり、それをきっかけに乳幼児にもっと図書館を利用してもらえよう的な体制づくりを進めるなど、より総合的な子ども読書活動を推進しています。これらの活動は、すべて市民の皆さんの理解と協力があつてこそ。本を挟んでの「子どもとのキャッチボールが楽しい」。そんな市民の皆さんに図書館の活動は支えられています。



▲岡野牧子さん(写真上)と佐々木直美さん(右)。4年2組では2人を含め現在11人が「読み聞かせ」に参加。毎週水曜8:20から10分間、「本の村」として活動しています



▲南線小学校4年2組の教室で「読み聞かせ」を聞く子どもたち